

ブックマン社刊 合格請負シリーズ

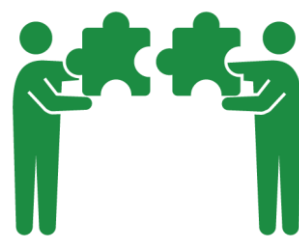
センター現代文 マッピング解法

即断
速解

ウェブ解説編

2017_0608ver.1.2

「ウェブ解説編」では、本冊であえて触れなかった補足的な説明や「選択マッピング」、「詰めの検討」などを掲載しました。「自分が選んだ答えがなぜ違うのか分からない」「本冊の解説だけでは納得感が得られない」という人は、該当箇所の解説を読んで疑問を解消し、マッピング解法への理解をより深めるためにご活用ください。本冊巻末の**アルゴリズム・捕獲アイテム7**も合わせて参照しながら、解法の基本手順やテクニックをしっかりと身につけましょう。



執筆：日守 研／秋田 貴之

1章 マッピング解法をマスターしよう！

トライアル問題1(16～19ページ)

■アドバイス・補足

解説を読んで納得できたら、同じ考え方で正解を出せるように解き直しをしておこう。

行き詰まったときは、解説や巻末の**アルゴリズム**(220ページ)で解法手順を確認し、「3つ

の作業」を滞りなくできるようにしておきたい。また、「作業2」では**参照範囲の拡張**によって、正解を絞りやすくしている点を再確認しておこう。

■選択肢マッピング

①「従兄の持っている才能のうちの1つとを引き換えにしたい」の言い換え表現は、本文第1段落2～3行目にある。ただ、第2段落以降は従兄の話題からすっかり離れ、「僕」の図画に対する純粋な気持ちが続られている点から、対応関係の誤りと判断できる。

⑤「絵を描くこと」で、その解消をうながしている「その解消」とは、「得体の知れぬ憤り」を消そうとすることだが、傍線部直後「そいつ(＝得体の知れない憤り)をこまかしてしまっ」とは不可能だった」の記述と矛盾する。

■詰め

④のすべての要素が合致することを、20～21ページで解説。

■使用アイテム
Easy to find!



【参照範囲の拡張】

トライアル問題2(24～27ページ)

■アドバイス・補足

「造型し構成し変容せしめよう」のように、主語と述語が整っていない短いフレーズに傍線部が引かれているときは、傍線部に含まれていない「誰が」「や」「何を」などに相当する部分を考えながら本文中の言い換え表現を探すのもコツの一つ。

■使用アイテム
Smart play!



【分割マッピング】

たとえば、同じ分割マッピングでも「変容せしめ」「着目する」と「誰が」に相当するのが「西洋の芸術家」で「何を」に相当するのが「自然」であること文脈から推測でき、「自然を素材にして、それに人工を加える」を参照範囲に定めることが可能。

■選択肢マッピング

日本の芸術の特徴を述べた選択肢はすべてバツにできる。

④「変化こそ自然の本質だとする考え方を積極的に受け入れ」は本文第6段落「変化こそ、生なのである」「日本のある種の芸術が志向するものは移って止まぬ生命の輝き」に対応するが、日本の芸術について述べたもので不適。

⑤「自然の素材の変化を生かしつつ」に対応する表現が本文中になるので不適。本文には書かれていないが、このフレーズに対応するのはむしろ日本の芸術。

■詰め

27ページ後半で解説。

2章 センター小説の攻略プログラム

■適用練習1(37ページ)

■アドバイスと補足

小説の中の一節を切り取って出題する場合、本文を読解するうえで最低限必要な情報をリード文で提供する。結果的にその情報がヒントになることもあるので、普段からリード文をしっかり読むクセをつけておこう。

■使用アイテム
Easy to find!



【参照範囲の拡張】

■選択肢マッピング

①本文では「二三の知った画家の出した絵」とあり、「直子は去年も一昨年も見なかったので、今年は早く行って見ようと思った」とある。つまり、直子は以前から絵に多少なりとも興味があり、過去に展覧会にも行っていたことが分かるので、「絵の鑑賞を夫から勧められてにわかに興味を覚え」が矛盾する。

②「全快を実感できる絶好の日になるとふと思いついて」に対応する記述が本文にない。

③展覧会に行くことを「はたと思いついた」とは書いていない。

⑤「子供は退屈するのではないかとためらっていたところ」に対応する表現がない。対応関係の誤り。

■詰め

「作業3」で解説。

■アドバースと補足

この問題もリード文をしっかり読んでから本文に入ること。お治婆さんを訪問するのは市役所の公書課の職員で、今回やってきた「梶氏」の前にも担当者がたびたび訪問していたことが、本文冒頭から分かる。その目的は、お治婆さんに汚染された干潟から立ち退いてもらうことにある。本冊では紙面の関係でその部分は割愛せざるを得なかったが、④「市の意向に逆らい続けるお治婆さん」や⑤「工場の危険性を説明して干潟から立ち退いてくれるよう説得に来た」は、その部分のみ本文に合致している。

■選択肢マップピング

③「思いがけなくお治婆さんが取り乱してしまったので責任を感じ、工場の書を強調し過ぎたことを取りつくるおうと思ったから」に対応する記述がない。本冊でも触れたが、「そんなこと、まったく必要ありません」と言ったのは、お治婆さんの「立札を立てなくちゃ」に対する強い否定であることに注意。

「梶氏」が「基準値を超えることはめったにないのです。ただ、気分の問題で」と言ったあと、「お治婆さんがこのしりして」気分なら、今のところ上々ですわ」とすっとほけたことをい、なほに汚染された貝の佃煮を再び食べるようにすすめるあたりで、お治婆さんは干潟が汚染されていなくても相手の反応も分かったうえで、「おき居」を楽しんでいゝる相手を試していゝことに気づきたい。

④「親切な人柄に心を許し始めた」「そのずうずうしいに憤りを覚えた」に対応する表現が本文にない。対応関係の誤り。

⑤「良心の呵責を感じさせてしまったことを気の毒に感じたから」に対応する表現が本文にない。お治婆さんは干潟が汚染されていることを以前から知っていて、それまでも市役所の担当者が同じ目的で訪ねていた、ひと芝居打っていることに、この時点で「梶氏」は気づいておらず、「立札発言」に慌てた様子が描かれる。

■詰め

①「驚き、うろたえた」は傍線部「新任の市役所」の顔色が変わった「や傍線部直後の「そんなこと、まったく必要ありませんよ、おばあちゃん」のセリフと対応し、特に矛盾はない。

適用練習3(47ページ)

■アドバースと補足

正解の根拠となる手がかりが本文中に少なく、選択肢の作り方が巧みなのでフェイクにひっかかりやすい。こうした設問の場合は、より慎重に、細かい対応関係を見逃さないようにしよう。

■選択肢マップピング

③を除く選択肢は、言い換えマップ(46ページ)のバツ印に対応する表現が本文中にない。

■詰め

「作業の」で解説。

■アドバースと補足

「傍線部とはどういうことか」を問う場合、「傍線部と選択肢が全く対応しない」ケース(53ページ下の図表の「2」)でも、「隠れ傍線部」の存在を前提にしなくてよい設問もある。

たとえば、1章「トリアル問題2」では、傍線部「造型し構成し変容せしめよう」に対応する表現はどの選択肢にもない。しかし、傍線部を言い換えた本文「自然を素材にして、それに人工を加える」と対応する選択肢はある。この場合、あえて「隠れ傍線部」の存在を前提にする必要はなく、1章の基本作業の通りに、すなわちへ傍線部——本文くマッピングで傍線部の言い換え表現を本文中に探して参照範囲とし、へ選択肢——参照範囲くマッピングで解答を絞り込んでいけばよい。傍線部が短い(主語と述語を備えていない)フリーズの場合、こうしたケースがよくある。

「隠れ傍線部」の存在を前提にするのは、「傍線部を言い換えた本文(＝参照範囲)」も選択肢に全く対応しないケースだ。たとえばこの設問の傍線部「母を責める言葉が、止まらなかった」の言い換えは、その直前の佳代子のセリフ「どうして周が見えないの? どうしてお金のことばかり言うの?」どうしてちゃんとできないの?」だが、「これを参照範囲とした場合に対応する表現はどの選択肢にもない(参照範囲を拡張することまでできない)。

つまり、「隠れ傍線部」の存在を前提にするのは、「傍線部と選択

肢が全く対応しない」かつ、「傍線部の言い換え表現(参照範囲)が選択肢と全く対応しない」ケースである。複雑な説明になるので本冊では触れなかったが、53ページ下の図表の「2」をより正確に表すと次のようになる点を補足しておきたい。

2 傍線部と選択肢が全く対応しない、かつ、傍線部の言い換え表現(＝参照範囲)も選択肢と全く対応しないor傍線部がない

■選択肢マッピング

ポイントとなるのは「きつと母でも、東京でもない」「怒りなのか哀しみなのか、なにもわからなかった」と佳代子が吐露する心情で、傍線部「母を責める言葉が、止まらなかった」この原因を具体的な事物や感情に求めている選択肢(①以外)はすべてバツにできる。

■使用アイテム
Critical hit!



【骨格マッピング】

- ②「佳代子はふだりの心の溝が深まりつつある状況から目をそむけようとして」に対応する記述が本文にない。
- ③「娘には都会に染まらないで質素に生きて欲しいと内心思っている母」「変わっていかへ自分を許して欲しいというわがままな気持ち」が佳代子のうちにあふれ出てきて「が本文と合致しない。
- ④「地方に暮らす母が自らを田舎者と呼んで恥じる素振りも見せず、達観した言葉を口にする」に対応する表現が本文にない。
- ⑤「童心にかえってしまい」「昔のように自分を叱ってくれない」と佳代子は不満を抱き、「に対応する表現が本文にない。

■ 詰め

①「母をもてなそうとする思いが空回りしてしまい、意思疎通がうまくいかない状況へのいらだちを募らせる」は、お昼ご飯に精養軒（上野にある老舗の洋食レストラン）を予約した佳代子と、手作りの風ごはんを佳代子に内緒で用意していた母とのすれ違いからうかがえる。また、「都会で暮らす歳月のなかで変わってしまった自分」は、「自分がいつしか背負ってしまった現実」と対応する。佳代子は小さい頃、母に憧れ、母を誇りに思っていたが（「凄まじい敵」まで）。凛と美しい仕草で、「その母親の老いに気づき、母親のしぐさや言動が、かつて自分が理想としていた母とはかけ離れていること」にいらだちを募らせる。「そんなちびた下駄を履いてちゃダメじゃない！こんなところでおにぎりなんか、みっともないんだわ」とまくしたてるが、「こんなところ＝都会」という場を考ええると、佳代子が都会の価値観に染まったからこそ出てくるセリフだと言える。佳代子が母を喜ばそうと考えるも、ないは、いずれも都会的なことばかりだが、田舎に暮らす母が同じ価値観を共有しているはずもない。このようにして母と娘は違う価値観のものになる。それを本文では「いつしか背負ってしまった現実」と表現する。

■ 適用練習5(57～59ページ)

■ アドバイスと補足

正解の手がかりとなる根拠が本文中に少なく、どの選択肢もそれ

なりに「正しい」と見える「ため、解答を絞る」こと。

①は「他の乗客と同じ金額であったこと」が、具体的すぎて何となくイヤな感じがするかもしれないが、本文との対応関係ではこれが最有力だ。間違えてもあまり気にせず、あくまでもマッピング解法の**対応関係にこだわる姿勢**を貫くようにしよう。

■ 選択肢マッピング

②「見知らぬ男に声をかけられてためらいながら」に関しては、本文4～11行目の「若い男」とのスムーズな会話から「ためらい」の感情を汲み取れない。また「前に座っているのが年配の女性であること」を安心した理由とする根拠が本文中にない。

③「闇で座席を買われたことを耐えがたく思い」に対応する表現（言動・セリフ）が本文中にない。本文12～13行目「が話は聞いていたので、私はその男との対応も心得たふうに言って、内心ほっとしていた」の記述と矛盾する。「買われた」わけでもないし「耐えがたく」思っていたわけでもない。

④「罪の意識を感じながらも」は微妙なところだ。本冊には収めきれなかったが、実は本文後半に「私は闇で座席を買った罪ほろぼいのように、せめて男の子を膝に抱いている」とあり、この記述にこだわると④を選びたくなる。ただ、闇の座席を買う場面での会話からは「罪の意識」は汲み取れない。つまり、その時点で罪の意識があったと断定はできない。罪の意識が出たとしても、それは親子が登場してから出たものかもしれない。「前に座っている女性と親しく

なって、長い道中を共に過ぐせることに満足している」も、まだ言葉
葉を交わしたばかりでそれほど親しい関係にはなっておらず、会話
も座席の値段をめぐる短いやりとりで途切れていることから、言
い過ぎの感がある。よって不適。

⑤「恥ずかしく思いながら」「は悪くないが、「次の仕事の準備がで
きる」とを「ほっとしている」の理由に挙げていているところがキズ。

「今朝まで仕事をして、今夕先方へ着けばすべ用事があった」とあ
るが、列車の中で仕事の準備をするような記述が本文にない。

■ 詰め

「作業3」で解説。

適用練習6(65ページ)

■ アドバイスと補足

ネットなどで「僕っ娘(男性一人称の「ボ
ク」を使う少女)」がセンターに出た！」と話
題になった問題。作品に描かれた「僕っ娘」
の気持ちが分かる読者には「易問」だろうが、
分からない読者にとってはまさに「HELL」
問。ただ、本冊で示したように**分割マッピング**で「隠れ傍線部」

■ 使用アイテム

Smart play!



【分割マッピング】

を割り出せれば、解釈できなくても正解にいたる。

■ 選択肢マッピング

①「自由に意見を交わすことができなくなってしまった」は、「以

前は自由に意見を交わしていた」ことを含意している。しかし、「ど
ちらも語るよりは聞きたがり、それでいて心のどこかでは耳をふさ
ぐ」としていた。それを隠すように「ことさら無邪気になろう」として
失敗した」などの記述(61ページ中盤の段落)から、二人がもとも
と「自由に意見を交わ」していたとは言い難いので不適。

②「自己の不在を夢みていた」は本文「切ない死の夢に吞まれて泣
きたかった」「けれど自分の不在を夢見るのなら」「(62ページ)な
どに合致するが、「生からの逃避が実現できないことだ」とお互いに
わかったため」に対応する記述がない。

③「結局はお互いにすべてを了解し得ないことが明白になったため」
に対応する記述が本文にない。むしろ、「見え透いている」という
ように、「了解していることばかりが述べられている」。

④「お互いに傷つけ合うことを恐れた」に対応する記述がない。

■ 詰め

視覚的に判断するマッピングは「作業2・3」の通り。傍線部C
を含む段落は、傍線部Cを除いて**主語が省略されている**が、どの文
も「ふたりは」が主語になっている。つまり、「**ふたりは**、幼児の
ような浅ましさを相手の中に、そして自分の中に見いだした」ので
ある。この言い換えが、直後の「そこに転がったふたつの魂がなん
と弱々しく、澄んだ感傷に包まれて蛙の卵のように見え透いている」
である。これらの部分は⑥の「お互いに考えの甘さを見透かされて
いると感じた」に対応する。

3章 センター評論の攻略プログラム

適用練習7(73ページ)

■アドバイスと補足

傍線部「からだ」が家のなかにある、ということのはそういうことだ」の解釈は難しいが、そのあとの段落で『リアフリー』に作られた空間では、そうはいかない。「＝」からだは空間の内部にありながらその空間の外へにある」と述べ、次のような対立的な図式になる。筆者が前者を肯定的に、後者を否定的に捉えているのは、「そこ」リアフリーに作られた空間(に住みつくとするのは、これまでからだが憶えてきた挙措を忘れ去るということだ)や『不自然』でそのような感覚がからだを侵蝕してゆく」などの記述から分かる。

- ・リアフリーでない空間では「からだ」が家のなかにある、
- ・リアフリー空間では「からだ」は空間の内部にありながらその空間の外へにある

傍線部「そういうこと」が指す範囲は、前の段落全体でもあるが、このうち最後の2文が、「和室の居間で立ったままである……いたたまれなくなって、腰を下ろす」までの具体例の言い換えになっている。解釈に自信がなければ、傍線部の「からだ」に着目した分割

マッピングを試みると、前段落の最後の2文に行き着く(最後の2文はいずれも「からだ」という言葉を含んでいる)。

■選択肢マッピング

①「他のひとごとと書らす」、②「記憶を蓄

積してきた身体」、③「経験してきた動作の記憶」、④「ふるまいを自発的に」など、他の選択肢も参照範囲に近い表現を断片的に含むが、合致する表現の長さや要素の多さをくらべる

■使用アイテム

Nice judgement!



【多数決の原理】

と、**多数決の原理**で⑤が圧勝する。また、解釈による正誤判断のポイントには、リアフリーの空間について述べた選択肢を落とせる点にある。

①「自然と身に付いた習慣によって、身体が侵蝕されている」に対応する表現が本文にない。「身体が侵蝕され」というネガティブな表現は、傍線部のあとの段落にあるが、これはリアフリーに作られた空間について述べているので不適。

②「不自然な姿勢をたちまち正してしまう」が**対応関係の誤り**。第1段落では「……老人たちの輪にはすべには入れず、呆然と立ちつくす。が、なんとなくいたたまれず腰を折ってしゃがみかける」とある。「不自然な姿勢をたちまち正してしまう」のではない。また「人間の身体はそれぞれの空間で経験してきた規律に完全に支配されている」に対応する記述もない。**言い過ぎの典型**。

③「経験してきた動作の記憶を忘れ去る」は、傍線部の次の段落「

れまでからだか憶えてきた筆描を忘れ去る」に対応しているが、これは、バリアフリーに作られた空間のことを述べているので不適。④「バリアフリーに作られた空間では身体が空間から疎外されてしまおう」は本文と合致する(前ページ上段の図式左側の言い換え)。しかし、後半「ふるまいを自発的に選択できている」が、本文「からだかひとりですんならうに動いてしまおう」と矛盾し不適。

■ 詰め

⑤の前半「ただ物理的に空間の内部に身体が存在するのではなく」を詰める。傍線部の次の段落に「単独の人体がただ物理的に空間の内部にあるということがまるで自明であるかのよう」にあるが、これはバリアフリー空間について述べたものだ。

それとは違い、「バリアフリーでない空間」では、身体が「空間」や「そこにいる他のひととひと」との関係性に規定され、そこで経験した動作を記憶している。そのことを選択肢で「ただ物理的に空間の内部に身体が存在するのではなく」と言い換え、バリアフリー空間とは対照的であることを強調している。以上より⑤は妥当。

■ 適用練習8(77ページ)

■ アドバイスと補足

評論文でも、傍線部の理由を問う設問では、「隠れ傍線部」の存在を前提とする。その場合、「作業1」で選択肢に共通する骨格を見たたり、〈傍線部—選択肢〉マップピングで両者の対応関係を見た

りする作業は普通に行う(巻末のアルゴリズムを参照)。この設問では、選択肢の骨格が揃っていて、傍線部「単純明快でくっきりとした輪郭が求められる」が選択肢「最小限の線で造形される」に対応している点を確認してから「作業2」に移る。

■ 選択肢マップピング

各選択肢に「人間の場合も……」とあるので、そのあとに述べられていることは、ハローキティやミッフィーと同じく「最小限の線で造形されている」の言い換え表現でなければならない。その観点から検討すると、次の傍点部分が不適または本文に合致せず。

- ① 「人物像が単純で、貴性をもっているほうが」
- ② 「人物像の個性がはつきりして際だっているほうが」
- ③ 「人物像の多面性を削ることで個性を堅固にしたほうが」
- ⑤ 「人物像が特定の状況に固執せずに素朴であるほうが」

■ 詰め

④「様々な場面の変化にも対応できる存在として広く受け入れられるから」の傍点部分は前半のハローキティやミッフィーが「人びとに広く受容された」に対応(呼应)する表現なので問題ない。

■ 適用練習9(81ページ)

■ アドバイスと補足

本文の傍線部などに関する「具体例」や「具体的な説明」を問う設問は、本問の他に二〇一四年本試、二〇一〇年本試、二〇〇三年

本試でも出題されている。特に変わった設問というわけでもなく、本文中の参照範囲を確定して選択肢マッピングに持ち込むまでの作業はまったく同一なので、不安になることはない。

■ 選択肢マッピング

① 「冬の静かな街並みの様子」は「対象が動かない」のでバツ。
② 「卵からかえった鳥のヒナが巣立つまでの様子」は、対象が動かないわけではないので迷うところだが、「遠隔操作によってレンズの向きを変えながら撮影する」は、カメラ自体（＝視点）が対象を追って動くとは書いていないので不適。

③ 「街頭でいつ発生するかわからない暴動の決定的瞬間」は、「動く対象」を捉えるのではなく、偶発的な出来事を記録することが目的なので、本文の趣旨に合致しない。「群衆の中を歩き回りながら無作為に撮影する」も、「動く対象を安定的に捉える」ための「視点の動き」ではない点が本文の趣旨に合致しない。

⑤ 「ボールを追って走る犬」は対象が動くので合致するが、「超高速撮影が可能なカメラで動画を撮影する」は、カメラ自体（＝視点）が「対象を追って動く」わけではないので不適。「動画」はちよっとしたフェイクで、「視点が動く」わけではないので注意。

■ 詰め

この設問では特に必要ない。選択肢④の対象が動き、視点もそれを追って動くことを確認すれば「詰め」になる。

適用練習 10 (85 ~ 87 ページ)

■ アドバイスと補足

本文の冒頭部分に傍線部が引かれる設問は、それ以降の本文に言い換え表現が出てくる。

しかし、漫然と読んでいると見落とす可能性があるがあるので、傍線部の「アイデアマン」「デザイナ―」を目立つように囲ってから**目印ハンティング**を開始する。最悪時間がなければ、目印のワードが出てくる段落まで一気にフープしてもかまわない。

■ 選択肢マッピング

マップ (86 ページ) にあるように、「アイデア」が、自ら考えるものではなく、既成の情報記号を引用し組みかえる替える手法に関わるもの(状況)になったことで画家から失われるのは、傍線部「確固とした存在理由」だ。「失われるもの」に対応する選択肢末尾に着目すると、次の傍線部が画家の「確固たる存在理由」に対応せず。

① 「抽象的な絵画のような特有の表現領域すら失いつつある」
② 「画家が筆をとって絵を描く機会が失われつつある」
③ 「画家の自尊心が失われつつある」
④ 「画家が絵画によって表現すべき独自のテーマを見失いつつある」

■ 詰め

「作業」で解説したように補足すると、⑤ 「画家の仕事の固有性が見失われつつある」の「画家の仕事の固有性」とは、「画家の



仕事にしか備わっていない属性」であり、これが傍線部で述べられる画家の「確固とした存在理由」に対応している。

適用練習11(93ページ)

■アドバイスと補足

①の設定では、**目印ハンティング**で「隠れ傍線部」を割り出し、最終的に**多数決の原理**で正解を絞り込んでいく。

〈選択肢——隠れ傍線部〉マップピングでは、

③の「観客の眼差しを抑圧してしまう」に対応する表現を見落とさないようにすることがポイント。視覚的な対応関係はないが、「眼差しを抑圧」が「奴隷と化す」「ひとつの意味しか見出せない」と意味的に対応している。見た目の対応だけでなく、意味的な類似や対応にもじゅうぶんに注意を払うようにしたい。

■選択肢マップピング

各選択肢の冒頭、映画の特質を述べた部分は特に本文と矛盾していないので、①で絞り込むことはできない。

④「反復とすねによって表現する」に対応する表現が隠れ傍線部がない。本冊の「それにしても、小津さんは……」「で始まる最後の段落に」まじってや反復とすねによって気づかぬうちに移ろいゆへのが

■使用アイテム

Super effective!



【目印ハンティング】

Nice judgement!



【多数決の原理】

小津さんが感じる時間とその流れであり、「……」とあるが、傍線部を含む段落までは、「小津さん」のことには一切触れていないので**対応関係の誤り**。傍線部直前の「従って」は、前段落の内容を受けて論を進める接続詞であることに注意。

⑤「ひとたびその速度に慣らされてしまった観客」に対応する表現がない。「時間の速度に慣らわれ、その奴隷と化す」「あるいは」時間に圧倒されて、ついにひとつの意味しか見出せないくなるのであって、「速度に慣らされる」のではなさ。

■結め

傍線部の2つ前の段落冒頭に「だか映画はそうした眼差しの無用さ、無償性を許す」とはせず、あくまでも特定の視点を強要し、さらにはわれわれが見入っている時間に至るまできびしく制限しようとする、……」とある。この部分に照らしても、③「映画に見入っている時間をきびしく制限しようとする」で、観客の眼差しを抑圧してしまう「は本文の趣旨と合致する。その「結果」については本冊で解説した通り。

■ アドバイスと補足

かなりの難問で、河合出版の過去問集『セ
ンター試験過去問レビュー 国語』の解説では
「解答は一応確定できるものの、良問だとは
決して言えないものである。したがって、正
答率も低いものであったと想定される」と述
べている。しかし、マッピング解法では、傍
線部の言い換え範囲さえ確定できれば、それ
ほど迷うことなく正解を絞り込める。目印ハ
ンティングで傍線部の言い換えを見つけたあ
と、参照範囲の拡張によって「社会に復帰す
る演習の経験を失う」のフレーズを導き出すまでがポイント。

■ 選択肢マッピング

① 「人生の行程が凝縮」「身体ゲーム」は傍線部と同じ段落に対応
する表現があるが、これは隠れん坊の特質を述べたものなので不適。
また、「苛酷な身体ゲーム」は言い過ぎ。

② 『「複数オニ」や『陣オニ』は、オニに捕まった者も助かる契機
が与えられている」が不適。少なくとも「複数オニ」では捕まった
者が助かる契機は与えられていない。

■ 詰め

本冊で過不足なく解説。

■ 使用アイテム

Super effective!



【目印ハンティング】

Easy to find!



【参照範囲の拡張】

4章 センター小説を完全クリアー！

総合演習1 「白桃」

問2(121ページ)

■アドバイスと補足

3つの作業のどれもが行いやすく、正解しやすい問題と言える。確実に正解したい。間違えた人は2章までを読み直そう。

■選択肢マッピング

①「米が売れそうにもない不安」にあたる記述が本文にはない。
②「卑怯」だけでなく、その前の「そんな意欲を持てず放棄したい」と考える「に対応する記述がない」。

③「周囲から兄に比べて幼稚だと思われてしまい」に対応する記述がない。周囲からの弟に対する評価はどこにも書かれていない。

⑤「卑しく」が異なるほか、桃を食べたいという欲求を表に出している記述がない。「帰る」が「帰る」だけではない。

■詰め

「言い換えマッピング」参照。「お金をもらったら帰る」と「おもおもう」の「帰る」は「帰る」ではない。「ひたすら役目を果たそうとして」の「ひたすら」は「ひたすら」ではない。

■使用アイテム

One-hit KO!



【ダイレクトマッピング】

問3(123ページ)

■アドバイスと補足

主人の心情が表れている部分を残らずマッピングすることが大切。客との会話で**主人がいきりだっている**ところまで**まとめられる**かが勝敗の分かれ目になる。

兄弟に話しかけているわけではないが、兄弟に米を買わないと告げているところに客が割って入ってきたところで「わしの気持ち」と言っているのだから、このときの感情は「社長」**に対する感情と連続している**と読むべきだ。

■選択肢マッピング

①「社長のお世話になった」とセリフにあるが、これは「対等」とは言えないだろう。「寂しさと悲しみ」に合致する記述もない。

②「生きていくための手段を選ばなくなった今の自分の生活が非常に重なり、そのことをつらいと思っている」に対応する記述がない。「メチールでこたま儲けた」が「手段を選ばなくなった」に対応

すると読めるかもしれないが、そうだとすると「自分と」社長を重ね合わせている記述がないため、やはり不適。

③途中までは「おれ」にも見えるが、「改心してほしい」と願っている「に対応する記述がない。予断を持ち込まずにマッピング解法で判定し、不正解を避けよう。

④「何かと世話をやっていて」「は**言ひ過ぎ**」。酒代だっただいぶたまっているが、一度も催促なんかしやしない」がそれに相当す

ると思えるかもしれないが、「何かと」とまではいかない。「驚きあきれている」も「いきりたった主人」と矛盾する。

■ 詰め

「見えずいた手段で自分をだまそうとした」は「屑米と糠がたっぴり混ぜてある」「けちなペテン」に合致する。「以前はこんなことをする人ではなかった」は、傍線部「社長ともあろう方がこんなけちなペテンをなさる」と呼応する。「やりきれない」も傍線部の「残念」に対応して矛盾しない。

問4 (125 ～ 127 ページ)

■ アドバイスと補足

難しい設問だ。丹念に選択肢のキズを探そう。マッピング解法の「大前提」に基づき判断を排して判断したい。「選択肢マッピング」と「詰め」は本冊の解説の通り。

■ 使用アイテム
Comeback win!



【最終判定の抛り所】

問5 (129 ページ)

■ アドバイスと補足

次の問6の解説でも述べるが、参照範囲が広い設問の場合は、それまで解いてきた設問で考えたことがヒントになる。やみくもに本文を読むよりは、「これまでの設問で触れた部分」、兄と弟の違いが分かる部分はなかっただろうか」と当たりをつけて読んだ方がよ

い。そのうえで、選択肢との対応関係を見よう。

■ 選択肢マッピング

②「感情に振り回され、思いのままの行動がとれなくなっている」に該当する記述がない。
③「どのような状況に置かれていてもただ兄について行きさえすればよい弟」に対応する記述がない。確かに兄はリーダー役を果たしているが、弟が単に付き従っているだけである、と明確に述べた部分は無い。

④「直接目に見えないものにまで意味や象徴性を読み取ろうとする」に対応する記述がない。「うずくまった獣のかたち」「異様な世界のただずまい」など、すべて目に見えるものである。直接目に見えない木屋の匂いに対しては特別な意味を見いだしていない。

⑤「経験にどうしても左右され、今を見失いがち」が本文と対応しない。米を売ることができなかったときも、道に迷ったときも、「売れなかった」「迷った」という事実（＝現実）と向き合って感情が乱されているだけで、「今を見失っている」とは言えない。

■ 詰め

①「目の前のものに対して弟は自分の感受性に従い次々と心を動かされていく」は「月の光が……弟はおどろいた」など、様々な場所に対応する。後半は選択肢マッピング⑤で見たとおり、本文の記述に合致する。

問6(131～133ページ)

■アドバイスと補足

この手の問題では、選択肢をひとつひとつ吟味することが欠かせない。選択肢を読み、対応する、あるいは矛盾する箇所を本文に探しに行くのが基本であり正攻法。

■選択肢マッピング・詰め

本冊の解説の通り。

総合演習2「雨の庭」

問2(147～149ページ・154ページ)

■アドバイスと補足

保留するにはためらいがあるかもしれないが、むしろ保留は積極的に使うべき方法だ。センター試験は時間との戦いでもあるため、「落ち着いて解けば確実に正解できる問題」を慌てて解くことがないようにタイムマネジメントすることが欠かせない。

■選択肢マッピング

②「自分の家への愛着が家族の誰よりも深いことに気づき」「や」陽気なパーティーの開催に違和感を感じている」に対応する記述はない。そうであってもおかしくはない記述は散見されるが、絶対にそ

■使用アイテム

Comeback win!



【最終判定の抛り所】

うだと言いつ切る根拠にはならない。「そうかもしれない」で正解としてはいけない。「この本文記述から、この選択肢が最も妥当だ」と言えるものでなければいけない。

④「にぎやかな息子夫婦や孫たちの振る舞いを苦々しく思っている」に対応する記述がない。これまた、「そうかもしれない」という予断は排除しよう。①・⑤は解説の通り。

■詰め

本冊の解説の通り。

問3(149～150ページ)

■アドバイスと補足

これまた、参照範囲が広い。とはいえ、散在する隠れ傍線部は傍線部Bから傍線部Cまでの間にある。特殊な順序で読んだり解いたりする必要はない。以下、選択肢マッピングを示すが、本文を解く際は本冊で述べた通り、「詰め」を優先すべきだ。

■選択肢マッピング

①「今の自分と二重写し」に合致する記述がない。父についての説明に大きな矛盾はないが、それが「彼」にも重なるという記述は本文のどこにもない。

②「頑ななために失敗をする父が、老いた今も昔と変わっていない」が本文と矛盾する。過去において父が頑ななために失敗したという話は本文にない。

③「幼いころの焚火の体験が、楽しい思い出として眼前によみがえってきて」にあたる記述が本文にない。「こうして彼が父の手助けをするのは幼年時代以降はたえてなかったことだ」と述べられているが、「楽しい思い出として眼前によみがえった」とする記述はない。「近寄りたがたい父」も、本文に該当する記述がない。

④「父への反発」が本文に見当たらない。「社会的地位や富などを誇りにして生きてきた父」も、本文に該当する記述がない。

■ 詰め

本冊の解説の通り。

■ 問4・5・6(151～159ページ)

■ アドバイスと補足

いずれも必ず正解したい設問。ダイレクトマッピングでケリがつく問題は確実に押さえない。問5は深追いを避けて**多数決の原理**で答えを決めたが、これ以上追及しても予断の山を築くだけである。問6を解いている最中に時間切れを迎えそうになったら、「不正解だと断言できる選択肢」を除いた中から正解をヤマカンで選ぶのも手だ。

■ 選択肢マッピング・詰め

本冊の解説の通り。

■ 使用アイテム

One-hit KO!



【ダイレクトマッピング】

Nice judgement!



【多数決の原理】

5章 センター評論を完全クリアー！

総合演習3「科学コミュニケーション」

問2(19ページ)

■アドバイスと補足

作業1の「**選択肢に共通する骨格を見る**」

は忘れずに行うようにする。この設問では、
選択肢の文章の骨格が揃っていて、しかも傍
線部を含む一文とも同じである。このようなケ
ースでは、傍線部——選択肢くマッピング
→**ダイレクトマッピング**で解答を絞り込め
る確率が高い。また、**骨格マッピング**を活用
した参照範囲の確定もやりやすい。

ちなみに、傍線部を含む一文(a)の後半

「先進国の社会体制を維持する重要な装置

となっている」と参照範囲(a)の後半「実験室の中に天然
では生じない条件を作り出し、……重点が移動している」は同じこ
との言い換え表現ではなく、意味的には対応していない。しかし、
大きく捉えた場合は「言い換え表現」としてもかまわない。評論で
は、「**同じことを何度も、ちよつとずつ表現を変えながら書く**」(68
ページ)という手法で論を展開していくので、「同じ」部分のな

■使用アイテム

Critical hit!



【骨格マッピング】

One-hit KO!



【ダイレクトマッピング】

非対応「はあまの氣にしくなくてもよい。あくまでも一文全体を大き
く捉え、「同じ」ことを、違う視点で捉え直しながら論を展開してい
る」のであれば言い換え表現とみなしてかまわない。

■選択肢マッピング

いずれの選択肢も本文に照らして大きく矛盾することは書いて
いないので、選択肢だけを読んでいくとどれも正しく思えてくる。
しかし、「**正解の選択肢は傍線部を言い換えたもの**」という前提に
立ち返ると、傍線部「先進国の社会体制を維持する」を正しく言い
換えているのは⑤しかない。それを確認したうえで個別に見ておく。
①「先進国としての威信を保ち対外的に国力を顕示する手段となる
こと」で「に対応する表現がない。

②「国家に奉仕し続ける任務を担う」に対応する表現がない。

③「為政者の嚴重な管理下に置かれる国家的な事業へ拡大」「先進
国間の競争の時代を継続させる戦略の柱」に対応する記述がない。

④「経済大国が国力を向上させるために重視する存在へと変化」に
対応する表現がない。

■詰め

⑤の「人間の知的活動という側面」は、本文第1段落「一部の好
事家による楽しみの側面」と対応する。「実利的成果をもたらす」
は第3段落「社会の諸問題を解決する能力」や「病や災害といった
自然の脅威を制御できるように」になってきた「に対応する。

問3(181ページ)

■アドバイスと補足

傍線部「もっと科学を」というスローガンと同じ表現の文(第3段落2行目)に着目するのは**分割マッピング**の手法。そのスローガンが説得力を持っていた時期は、第3段落1行目より「一九世紀から二十世紀前半にかけて」である。それ以降、すなわち二十世紀後半になると、科学―技術が作り出した人工物が人類に災いをもたらすようになり、「もっと科学を」というスローガンの説得力が薄れていく。それを踏まえて選択肢を読むと、やはり④が最も適切である。以上を確認したうえで個別に見ていく。

■選択肢マッピング

- ①「自然に介入しそれを操作する能力の開発があまりにも急激で予測不可能となり、その前途に対する明白な警戒感が生じつつある」が本文と合致しない。急激で予測不可能な「能力の開発」が警戒されたのではなく、「科学―技術の作り出した人工物」が現実さまざまな災いをもたらしたことが、「科学が問題ではないか」という新たな意識が社会に生まれる契機となった。
- ②「営利的な傾向が強まり、その傾向に対する顕著な失望感が示されつつある」が本文に合致せず。
- ③「その方法に対する端的な違和感が高まりつつある」が不適。①

■使用アイテム

Smart play!



【分割マッピング】

で述べたように「科学―技術が作り出した人工物」がもたらす脅威や不安が「科学は問題ではないか」という意識の根源にある。本文にもある「環境ホルモン」などがその典型。

⑤「市民の日常的な生活感覚から次第に乖離するようになり、その現状に対する漠然とした不安感が広がりつつある」が合致せず不適。

■詰め

④「その理論を応用する技術と強く結びついて日常生活に役立つものを数多く作り出した」は、本文第3段落「永らく人類を脅かし苦しめてきた病や災害といった自然の脅威を制御できるようになってきた」に対応する。「その成果に対する全般的な信頼が揺らぎつつある」は、傍線部の「『科学が問題ではないか』という新たな意識が社会に生まれ始めている」に対応している。

問4(183ページ)

■アドバイスと補足

傍線部「ゴレムのイメージ」に着目した**分割マッピング**による参照範囲を、「不確実で失敗しがちな向こう見ずでへまをする巨人のイメージ」だけに限定すると、フェイク選択肢④や⑤にひっかかる恐れがある。

少し離れた第5段落前半に「ゴレムのイメージ」のプラス面とマイナス面の両方に触れた詳しい説明があり、この部分を参照範囲に加えてへ選択肢——参照範囲マッピングを行うことがポイント(参)

照範囲の拡張)。どの選択肢も明らかに間違ったことを述べていないため、考えすぎると迷いが出る。最終的に**多数決**で解答を確定するのが無難。

■選択肢マッピング

第5段落で、「コリンズとピンチは「現代では、科学が、全面的に善なる存在か全面的に悪なる存在かのどちらかのイメージに引き裂かれて」おり、その原因は「実在と直結した無謬の知識という神のイメージ」として捉えられてきた科学への「美化」と「幻滅」にあると説明する。そこで彼らは、科学に対するこのような完全無欠の神のイメージを、**人間に有益な面と危険な面の両方を持ちあわせた「怪物」コリンズのイメージ**に

■使用アイテム

Smart play!



【分割マッピング】

Easy to find!



【参照範囲の拡張】

Nice judgement!



【多数決の原理】

「シ」にとりかえることを提案する。それが、善と悪の二極に分裂した科学のイメージを修復し、一般市民に科学の「ほんとうの」姿を認識させる「処方箋」になると主張しているわけだ。

以上の解釈を前提に、個別に選択肢を見ていく。

①「やがて人間に**従属させる**ことが**困難**になる怪物「コリンズのイメージ」に対応する記述がない。また、「全面的に善なる存在」という科学に対する認識」を、「コリンズのマイナス面のイメージだけで捉え直している点」「現実の科学」についてもやはりマイナス面だけを

たらず存在としている点でも不適。これでは「全面的に善なる存在」から「全面的に悪なる存在」へと転換するだけで、分裂したイメージを修復する「処方箋」にならない。

②「自然に介入し操作できる能力を獲得しながらもその成果を応用することが容易でない存在」に対応する記述がない。

④「時に人間に危害を加えて**失望させる面を持つ**」に対応する記述が参照範囲にない。また、「美化されるだけでなく時には幻滅の対象にもなり得る存在」も合致しない。「美化」と「幻滅」は参照範囲にはないが、第5段落後半「科学が自らを**実態以上に美化**することによって過大な約束をし、それが必ずしも実現しないことが幻滅を生み出した」に同じ語句がある。

しかし、ここでの主張は、科学に対する「美化」や「幻滅」が科学のイメージを全面的に善か、全面的に悪かに分裂させたのであり、「美化」や「幻滅」は否定されるべきものとして捉えられている点に注意。つまり、「現実の科学は神聖なものとして美化されるだけでなく時には幻滅の対象にもなり得る存在」として認識した場合、結局は科学のイメージを両極端に分裂させる結果しかもたらさないことになる。よって合致しない。

⑤「主人である人間を守りもするがその人間を破壊する威力も持つ」は参照範囲に合致する。ただし、「現実の科学」について科学のマイナス面にしか触れていないのは、①で説明したように「全面的に善なる存在」から「全面的に悪なる存在」へと転換するだけで、分

裂したイメージを修復する「処方箋」にならない。

■ 結め

③「魔術的力とともに日々成長して人間の役に立つが欠陥が多く危険な面も備える怪物「コリム」は参照範囲に合致する。また「現実の科学は新知識の探求を通じて人類に寄与する一方で制御困難な問題も引き起こす存在」は、「全面的に善なる存在」でも「全面的に悪なる存在」でもない「科学の実態」に即しているので合致する。

問5(185～187ページ)

■ アドバイスと補足

傍線部「にもかかわらず、この議論の仕方には問題がある」の「この議論」は、第11段落の後半「そもそも、高エネルギー物理学、ヒトゲノム計画、古生物学、工業化学などといった一見して明らかに異なる領域をひとしなみに『科学』となぜ呼べるのであるのか、という問いかけ」ではないので注意しよう。「この勘違いを直す」という③や⑤にひっかかる。

第11段落で、筆者が「コリム」と「ペンチ」の主張のある側面「科学を一枚岩とみなす発想を掘り崩す効果」についてはいったん譲歩して肯定的に評価したうえで「にもかかわらず」と続け、12段落以降は「コリム」と「ペンチ」による「科学を『実在と直結した無謬の知識という神のイメージ』から『STEMのイメージ』＝「ほとんどの」姿(姿)へつなげるおそうしとする主張」(第12段落前半でも同じこと)を言い

換えて強調している)に対して反論を試みている。「この展開を正しく把握できていれば、少なくとも②、③、⑤を落とせる(選択肢冒頭「コリム」と「ペンチ」の主張」のピントがずれている)。

しかし、第10段落から最終第13段落までの本文では、さまざまな事例や要素を付加しながら論を進めているため、急に難解になった感じがする。議論の本筋を見失わずに正しく解釈するのはけっこう大変だ。解釈力に自信がない人は、本冊の解説で試みたように、選択肢に共通する骨格から本文中の「隠れ傍線部」を探り当てる骨格マッピングの活用を勧めたい。



■ 選択肢マッピング

①「科学至上主義も反科学主義も共に否定できた」とする「が本文に合致しない。第12段落では「……これを認識すれば、科学至上主義の裏返し of 反科学主義」という病理は癒はれるという「とある」、共同否定できた」とは言っていない。

②「市民が適切に決定を下すには十分ではない」が本文と合致せず。第10段落で「コリム」と「ペンチ」は「それ(問題解決)を一般市民に期待するなど」というのはばかげている」と主張していることと矛盾する。ちなみに前述したように、③は冒頭の「市民に科学をもっと伝えるべき」が、筆者が反論しようとしている「コリム」と「ペンチ」の主張の本筋ではない。

③同じく冒頭の「コリム」と「ペンチ」は、……疑問視しているが「の

総合演習4 「境界としての自己」

主張部分のピントがずれている。また「多くの市民の生活感覚からすれば……疑問を差しささむ余地などない」が明らかに本文と合致せず。そのようなことは書かれていない。

⑤「彼らのような科学社会学者は、科学に『』』についての『知識の重要性を強調するばかりで、科学知識そのものを十分に身につけていない』が合致しない。そのようなことは本文に書かれていない。

■ 詰め

186 ページのマップの最後に記載。ただし、試験本番では本冊で述べたように、詰めの解釈まで深入りする必要はなし。

■ 問6 (188 ～ 189 ページ)

■ アドバイスと補足

本冊の解説でほぼ過不足ないと思われるので、特に補足することはない。時間があれば、選択肢に書かれているような「段落ごと」趣旨を大きく捉える読み方（パラグラフフリーディング）を意識して本文を読み返しておきたい。

また、正解できた設問も含めて全体を通して自力で解き直す復習もやっておきたい（制限時間は25分程度に設定）。復習では、本冊の解説やウェブ解説編に書かれている考え方をスッと適用して正答を導けるかどうかを試すことが目的だ。途中で行き詰まったり、同じ設問で間違えたりした場合は、まだ解法がきちんとしていない証なので、解説を読み込んだうえで何度でも復習しよう。

■ 問2 (201 ～ 205 ページ)

■ アドバイスと補足

傍線部の前後だけを見てみると、どうしても②を選びたくなってしまうが、本冊でも触れたように対応関係を慎重に検討することにより②を除外できる。文法的に考えると「……に加え、……もまた」の助詞「も」は、「ある事柄に加えて、それとは別の事柄が同様に成り立つときに用いる」という説明になるだろうが、通常はそこまで厳密に文法を意識して本文を読まないで、やはりひっかかりやすい。

本冊の解説では、**ダイレクトマッピング**と**骨格マッピング**によって3択に絞り込んだ

あとは、④の「食行動などの場面で交わる他の個体」と「気象のよくなる自然現象に加え」が本文に合致することを、**参照範囲の拡張**によって確認している。本文を解釈できなくても、短いフレーズの意味的な対応と視覚的対応だけで正解にいたるマッピング解法の特徴がよく出る設問と言える。なお、「選択肢マッピング」と「詰め」は、本冊の解説で過不足ないと思われるので省略する。

■ 使用アイテム

One-hit KO!



【ダイレクトマッピング】

Critical hit!



【骨格マッピング】

Easy to find!



【参照範囲の拡張】

問3(205～207ページ)

■アドバイスと補足

「思いもかけぬ複雑な構造をもっている」のように、主語を欠いた短いフレーズの場合、傍線部と選択肢に明確な対応関係がない場合が多く、言い換え表現も見つけにくい。こうしたときは、傍線部の主語にあたる部分(ここでは「生命維持の営み」が主語)、を特定してその言い換え表現を本文中に探すようにする。

■使用アイテム

Nice judgement!



【多数決の原理】

■選択マッピング

①「各個体は集団からの自立をはかることで個体としての存在を保っている」と「内部環境は緊張関係を常にはらんでいる」に対応する記述がない。

②「内部の個体相互の利害関係が表面化しやすい」「集団行動の統一性の内実が常に変容している」に対応する記述がない。

③「集団として常に最適な結果を生み出す調整がはかられる」に対応する記述がない。細かいことを言っていると、「自由に行動している」も合致しない。「個体それぞれの欲求に対応している」や「独自の生命維持活動」は「自由な行動」ではなく、あくまでも生命維持の目的に規定されているからだ。

④「統制の破壊行動を起こす個体が内部に生じることもある」をおのずとその可能性は封じ込められる「に対応する記述がない」。

■詰め

⑤のすべての要素が参照範囲や本文の趣旨に合致する。

問4(209ページ)

■アドバイスと補足

本文が難解でも、そこで用いられる具体例は分かりやすい。傍線部と対応する具体例を参照範囲に加えることで、より正解が絞のりやすくなる。抽象的な表現とそれを言い換えた具体例は通常はセットになっていることが多い。

■選択肢マッピング

②「人間は自己意識を備えることで、他の生物には見られない強固な集団維持という目的を共有する社会を形成した」および「場合によっては集団全体の統制を優先して、個体の欲求を抑圧する」に対応する記述がない。

③「場合によっては生存競争において他の生物との対決能力が弱まり」に対応する表現がない。「種の存続が危ぶまれる可能性をも抱えるようになる」も本文になし。

④「他の生物から戦略的に身を守るようになった」「集団を防御する意識が過剰になり」「他の生物には見られない形の闘争が起こ

■使用アイテム

Critical hit!



【骨格マッピング】

Easy to find!



【参照範囲の拡張】

Nice judgement!



【多数決の原理】

るようになる「のいずれも本文に合致しない。

⑤「場合によっては環境に大きな変化をもたらし」が対応しない。

■ 詰め

①のすべての要素が本文と合致する。

問5(211～216ページ)

■ アドバイスと補足

本冊では、選択肢全体の構成を把握することに主眼を置いて解説したため、選択肢の前半部分から検討を加えているが、実際に正誤判定をしやすいのはむしろ選択肢の後半部分なので、後半の検討を優先させていい。その場合、③を正解候補にしたあと、最悪時間がなければ前半の検討を放棄して③で確定するのが実戦的。

また、「私」と「特異点」に着目して**目印ハンティング**で見つけた『私』というのは、いわば等質空間内の任意の一点ではなく、むしろ円の中心にたとえられるような、それ以外の一切の点と質的に異なった特異点である「が傍線部」特異点としての『私』という自己の言い換えである保証はないと本冊で説明したが、『私』というのは……特異点で

■ 使用アイテム

Super effective!



【目印ハンティング】

Smart play!



【分割マッピング】

Nice judgement!



【多数決の原理】

ある「の主語・述語の関係から、意味を解釈できなくても」を言い換えとすることにならざる不都合も問題もない。内容的には『私』が円の中心だとするならば……」に続く説明が、「等質空間内の任意の一点ではない」「それ以外の一切の点とは質的に異なった特異点である」ことの説明になっていることを解釈上の根拠として、言い換えが成立することを確認できる。

■ 選択肢マッピング

①「人間の認知機能を他個体と自己とを識別するもの」ととらえる見方が、傍線部「そのようなイメージ」の言い換えではなく、対応していない(②、④も同様)。「自己と他者とのあいだに引かれた絶対的な境界線の存在を前提にしても、本文では「絶対的な境界線」が定義されておらず対応する記述もない。『私』の内部世界の意味が変わり境界は相対的なものになってしまう」も対応する記述が本文にない。

②「世界の中での特異な自己の位置を定める精神分析的な『私』のとらえ方」が「そのようなイメージ」に合致せず。「世界の中での特異な自己を定める」のは筆者のとらえ方であって、それは「精神分析のいう『自我境界』という形での境界線」のイメージとは異なることに言及している。「必然的に他者に対して自らを特権化しすぎてしまう」に対応する表現も本文中にない。

④「特権的な一人称代名詞のはたらきによって……境界は共有されることになってしまう」の長い範囲にわたって本文に合致せず。

⑤「そのようなイメージ」に対応する部分は合致するが、「認知機能上の絶対的な境界線」に対応する表現がない。本文で個体の「認知機能」について論じた段落では、自己意識を持つ「私」が、「他のもろもろの個体間の差異とは絶対的に異質の特異な差異でも、他者から区別される」と述べているが、これを「自己と他者との絶対的な境界線」と言い換えてしまつのは飛躍しすぎ。「当の内部世界にある自己意識は自ら、空間的中心にあることを合理的に証明できない」「も対応する記述が本文にはなく不適。

■ 結め

本冊の解説の通り。

問6(217～219ページ)

■ アドバイスと補足

論の展開に関する設問で、全体を時系列で要約したような選択肢が並んでいる場合、馬鹿正直に①から順番に読んでいく必要はない。本冊でも触れたように「まだ記憶に新しい」本文の後半部分の照合を優先させるのが効率的。積極法だけで決めるのが不安なら、明らかに違う部分にバツ印を、判断できない部分に三角印をつけておき、いずれにしろ最終的に**多数決の原理**に持ち込む。

■ 選択肢マッチング

①「個々の個体の場合と複数の個体の場合との異なりを明らかにしている」に対応する記述がない。本文では、個々の個体も複数の個

体の場合も、「環境との境界面で最適の接触を求めている」(本文第4段落)とその共通点について触れている。「生命の営みを物理空間に投影する方法によって立証している」も不適。本文では「生命の営みは、これを物理空間に投影してみると、すべて境界という形をとるのではないか」と問いかけて読者に賛意を促しているだけで、これを立証とは言わない。

②「まず、……集団の場合を対象として考察し」が合致せず。本文では最初に「個体」について説明している(第1、第2段落)。「最後に、……との結論を検証している」も本文に合致しない。本文は「検証」や「立証」をするスタイルの展開ではない。

③「(最初)結論を明示」「冒頭の結論を個体と集団との場合にあってはめて検証する」「冒頭の結論へと再び立ち戻っている」の「一連の展開が本文と合致しない」。

⑤「その問題を一般化するために自己意識の存在に着目する」が不適。むしろ逆で、他の生物と比べて人間の場合の「環境との境界」や「自己と他者との境界」が非常に複雑で曖昧なものになることを説明するために「自己意識」に着目して論を展開している。

■ 結め

本冊の解説の通り。

